



学生が自ら地域で学ぶ

# 近江楽座

OHMI RAKUZA

## START BOOK

SDGsの達成に向けた「地域教育」



### SDGsについて

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標です。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境・社会・経済におけるさまざまな課題の関係性にも考慮して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されています。



／ CHECK! ／

### 近江楽座公式サイト

各プロジェクトの最新情報や楽座人物図鑑など近江楽座についての情報が充実しています。



スマホの方はこちら！

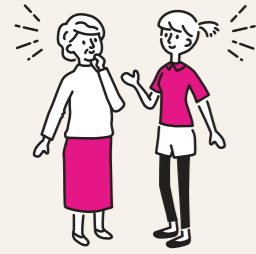
<http://ohmirakuza.net>





OHMI RAKUZA

# 近江楽座



近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を  
モットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。



学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、  
学内では学べないことを体験します。  
学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。



そんな学びの場づくりを目指しています。



## 近江楽座プロジェクト [2021年度]

01	政所茶レン茶ー お茶づくりから地元の文化や暮らしを学び、伝える
02	県大ラジオ部 大学と地域をつなげる、見つけるラジオ!
03	とよさと快蔵プロジェクト 古民家改修でまちを元気に! <a href="#">詳しくは P.05</a>
04	BAMBOO HOUSE PROJECT 竹林整備を通して、地域を育む
05	フラワーエネルギー「なの・わり」 バイオディーゼル燃料の精製・利用から資源循環型社会へ <a href="#">詳しくは P.07</a>
06	あかりんちゅ 廃棄されるろうそくを用いてエコでスローな夜を <a href="#">詳しくは P.03</a>

07	ボランティアサークルHarmony 障がい児・者とその家族の充実した余暇活動を支援
08	未来看護塾 地域の人々の心も体も生き生き健康に!
09	とよさだプロジェクト 耕作放棄地での野菜作りで地産地消促進を目指す
10	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト 沖島で流木を使った交流拠点の整備と活用
11	Taga-Town-Project 学生目線で多賀のいいところを発信
12	廃棄物バスターズ 目指せ!リサイクル社会!

## POINT 1 学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

## POINT 2 幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。

活動テーマ例

子ども	教育	福祉	健康
生活文化	伝統	調査	環境
防災	復興支援	まちづくり	ものづくり

## POINT 3 多様な活動形態 目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

### ▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト

SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

#### 新規プロジェクト・継続プロジェクト

18年間で延べ404のプロジェクト(Bプロジェクトを含む)が活動しています。

#### Sプロジェクト

活動資金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。



#### 県大ラジオ部

地域と大学をテーマとしたラジオ番組を制作。ラジオを通して新たな出会いや発見を作ることを目標に活動しています。



#### 未来看護塾

地域に住む様々な方が、心も体も生き生き健康な生活が送れるように支援することを目的に、ボランティア活動などを行っています。

### ▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。

## POINT 4 大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価

ボランティアサークルHarmonyが「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞するなど、近江楽座の取組は学外でも高く評価されています。



Taga-Town-Project

多賀観光協会と観光散策マップを制作



ボランティアサークルHarmony

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 伝達式

13	竹林GAKU 理想の竹林整備モデルの実践と発信
14	たけともミライ 宮城県気仙沼市で「竹の会所」とともに歩む
15	座・沖島 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる <a href="#">詳しくは P.08</a>
16	おとくらプロジェクト 人と人をつなぐコミュニティスペース <a href="#">詳しくは P.04</a>
17	滋賀県大生き物研究会 琵琶湖内湖の生態系を守ろう
18	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム 「復興」のその先へ。まちづくりをテーマにした復興活動

19	スチューデント・キュレイターズ 地域文化財を救え!我ら学生学芸員! <a href="#">詳しくは P.06</a>
20	Jesuit House Project 建築遺産を生かした地域拠点づくり
21	オオリヤロウ 男鬼集落で里山環境の再生を目指す
22	お山さんありがとさん 里山の恵を楽しみながら持続的に活用
23	かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY- 「地域よし×学生よし×家主よし」の古民家活用プロジェクト
B	近江楽座学生委員会 学生が住み、生かして、つながりを広げる





## あかりんちゅ

活動開始年：2009年

メンバー：29名

活動場所：彦根市/滋賀県内 他

関係団体：滋賀教区浄土宗青年会



### 廃棄されるろうそくを用いてエコでスローな夜を

滋賀県内のお寺などから使えなくなったろうそく、通称「廃ろう」をいただき、それを再利用してリサイクルキャンドルを作り、販売します。また、キャンドルナイトやキャンドル作り教室などのイベントを実施。自分たちで運営資金をまかない、独自予算で活動している唯一のSプロジェクトです。

#### 地域の声

滋賀農業公園ブルーメの丘 川村 桃子 さん

新型コロナウイルスの影響や、天候不良のため度々延期となりましたが、皆様のご協力もあり無事にキャンドルナイトイベントを開催することができました。ご来園いただいたお客様にも大変喜んでいただけました。特に、キャンドルを並べて作っていただいた羊や星はお子さまにも大好評でした。廃ろうを用いたキャンドルイベントはただきれいなだけでなく、SDGsについて考えるきっかけ作りにもなり、とても素敵な活動だと思います。

#### 学生の声

藤井 咲希 さん  
(人間文化学部 地域文化学科 3年生)

今年度はキャンドル作り教室やキャンドルナイトに参加することができ、人と関わる機会が多くありました。その中で分からないことや不測の事態への対応に難しさを感じる場面もありましたが、人の親切さに触れたり、笑顔を見ることができたりしたことで、対面で活動することの楽しさも感じることができました。あかりんちゅの活動に関わってくださる方々に感謝と笑顔忘れずに活動していきたいです。



## おとくらプロジェクト

活動開始年：2010年

メンバー：49名

活動場所：彦根市(高宮町)

関係団体：高宮連合自治会



### 人と人をつなぐコミュニティスペース

滋賀県彦根市高宮町にある築200年の古民家で、学生が改修してできたコミュニティスペース「ギャラリー喫茶おとくら」の運営を行っています。地域活動への参加やイベントの企画・運営を通して、高宮の地域活性化を目指しています。

#### 地域の声

おとくら家主・おとくら応援隊長 加藤 義朗 さん

コロナ禍のため、なかなか大変でかわいそうな一年でしたが、湖風夏祭が開催されたことで、久しぶりに本来の活動が見られて嬉しかったです。念願の喫茶営業再開に向けていろいろな申請を進めるなかで、まもなくオープンかと期待が膨らみます。お節介な家主の一言ですが、君達の活動はSDGs実践の先駆者です。高宮に新しい風を吹き、古民家を生かし、高宮の文化を知り、皆さんあってのおとくら。いっぱいおとくらで楽しんでください。

#### 学生の声

山本 真菜 さん  
(人間文化学部 生活栄養学科 2年生)

おとくらプロジェクトの活動では、多くの地元の方たちとお話することができました。私は自身の地元の活動にはほとんど参加していなかったため、家族や教師以外の大人と話す機会があまりありませんでした。しかし、この活動に関わるなかで、高宮町に住む方たちと交流する機会が多くあり、日常ではできない貴重な経験ができました。







## とよさと快蔵プロジェクト

活動開始年：2004年

メンバー：76名

活動場所：滋賀県犬上郡豊郷町

関係団体：NPO法人とよさとまちづくり委員会



### 古民家改修でまちを元気に！

豊郷町に多く残る空き蔵や空き家を地域資源として捉え、学生なりの視点で改修・再利用。改修した物件の活用方法や運営方法の模索、物件を使ったイベントの企画、町内イベントの参加や運営、BARの営業など、豊郷町を拠点に幅広く活動を行っています。

地域の声

NPO法人とよさとまちづくり委員会 岡村 博之 さん

コロナ禍で活動制限されるなか、豊郷町に大きな影響を与え続けてくれている学生の皆さんは、ギリギリの活動を続けてくれました。まちづくり委員会を始め、各地区の事業の運営には欠かせない存在です。またここ数年、活動してくれたOB・OGが、まちに残り、仕事としての活躍ぶりがまちの原動力になっています。この活動は、地域力が重要な時代に、永年関わり活動が続けてきた結果、大きなずれが無く、即戦力として結果が出るかと期待しています。

学生の声

築山 銀冬 さん  
(環境科学部 環境建築デザイン学科 3年生)

私が本格的に参加し始めたのは昨年の10月からでした。約半年の間に豊郷町で開催された酒蔵祭や豊郷雑巡り、改修作業などを体験し、豊郷町の人や各所の魅力を直に感じる事ができました。この実際に行かなければ体験できない豊郷町の魅力を、活動を通して町の方とさらに広め、向上させていきたいです。



## スチューデント・キュレーターズ

活動開始年：2012年

メンバー：22名

活動場所：彦根市／米原市／高島市／近江八幡市

関係団体：白谷荘歴史民俗博物館 他



### 地域文化財を救え！我ら学生学芸員！

民具や古文書、お祭りなど地域の歴史に深く関わる“地域文化財”を地域の歴史・文化などと合わせて住民の方々と調べ、“地域博物館”をつくるお手伝いをしています。地域文化財の保存・記録・発信を通じて地域の魅力の再発見を行っています。

地域の声

白谷荘歴史民俗博物館 川島 光男 さん

白谷荘歴史民俗博物館の調査・整理・維持・保存に引き続き携わっていただいていることに感謝します。皆様の活動は地域文化を守っていくことに非常に貢献しています。当館でも一般ボランティアの方を含む皆様方の活動が無かったらどのようなことになっていたでしょうか。学生の皆様には実感が薄いかもしれませんが、現地での活動が地域の特徴ある地方文化を守っているのです。これからも皆様方の熱意と情熱で、地域文化が忘れられぬように守っていきましょう。

学生の声

竹田 圭乃 さん  
(人間文化学部 地域文化学科 4年生)

この活動を通して、古文書の扱い方やずし字の読み方、整理の手順、展示の方法などを学びました。学んだと言っても授業とは異なり、常に実践を通しての学びだったので、より楽しく身に付けることができました。また、私は将来学芸員になりたいと考えているのですが、その業務の一端を知る良い機会にもなりました。







## フラワーエネルギー「なの・わり」

活動開始年：2005年

メンバー：21名

活動場所：彦根市

関係団体：菜の花プロジェクトネットワーク



### バイオディーゼル燃料の精製・利用から資源循環型社会へ

地域の方から畑をお借りし、菜の花・ひまわりを栽培し、バイオディーゼル燃料を精製・利用を行うことで、資源循環型社会の形成を目標に活動を行っています。また、出前授業や化学実験教室を開催し、エネルギー教育にも力を入れています。

#### 地域の声

MOP LABO Shiga Ryuo コミュニティスペースマネージャー  
深尾 善弘 さん

竜王アウトレットのコミュニティスペース「MOP LABO」で親子向けの体験教室を開催いただきました。開催はお客様の少ない時間帯でしたが、お子様の興味をひきやすいスライム製作体験などで、通りがかった親子連れの方の多くが参加されていました。場所の特性をうまく押さえたうえで企画をいただいております、スペースの運営者としてはありがたい限りです。今後もスペースを活用いただき、良い形で一緒にできることを楽しみにしています。

#### 学生の声

金山 翔太 さん  
(工学部 工学研究科 機械システム工学専攻 1回生)

学外の畑が広く畝作りや植え込みに一苦労しましたが、終わった後には達成感がありました。しかし、学内の畑では菜の花が雪のせいもあり枯れてしまったため、植物を育てる難しさを痛感しました。また、ワークショップでスライム作りを行った際に、小さい子どもたちが笑顔で作ってくれていたのがとても嬉しく感じました。



## 座・沖島

活動開始年：2016年

メンバー：4名

活動場所：近江八幡市沖島町

関係団体：沖島町離島振興推進協議会／沖島自治会



### 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる

日本で唯一、湖に人が暮らす島、沖島。過疎化などにより、琵琶湖と共にある暮らしの継承が危ぶまれます。このような沖島の状況に「まなぶ」「まじわる」「ささえる」を目標に島の振興のため活動しています。島の祭りなどのお手伝いや耕作放棄地を活用した沖島産の名物開発を行っています。

#### 地域の声

沖島町離島振興推進協議会 富田 雅美 さん

耕作放棄地を再利用するために整備をしていただきました。荒れ果てた地を整備するのは並大抵なことではないですが、天候に左右されながらもコツコツと頑張り、昨年はパパイヤの実をたくさん収穫できたことを有難く思います。次年度はパパイヤの商品開発などにも期待しています。また、従来参加されていた沖島の祭りや行事などがコロナ禍で中止になっていますが、次年度に復活できた際は是非参加していただき、沖島を盛り上げてもらいたいです！

#### 学生の声

古田 裕惟 さん  
(環境科学部 生物資源管理学科 3回生)

コロナ禍で活動が制限されていたため、主に畑作業しかできませんでした。畑作業を通して地域の方と関わり合うことができて良かったです。また、今年度は耕作放棄地であった畑で育てた青パパイヤを使って、「試作会」という新しい取り組みを実施できました。これからも引き続き新しいことに挑戦していきたいです。





「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」「人が育つ大学」として独自の教育活動を展開してきた滋賀県立大学。開学以来、持続可能な暮らしにつながる知恵や技法を地域から学び、探究してきました。これらの取組は、今日のSDGsの理念につながる取組でもあります。「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、ともに学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。

### ▶ SDGs宣言

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。



#### 滋賀県立大学SDGs宣言

- S | 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D | 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G | グローバルな思考と実践をもって
- s | 世界と地域の発展に貢献します

### ▶ 地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人(※)の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実に起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

#### 全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部生対象の必修科目で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を超えて一緒に学びます。各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、SDGsの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。



#### 夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしをもとに県内複数大学の学生がともにSDGsを学ぶ単位互換科目です。

※地域人：地域活動の実践者で本学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言などを行っていただく方々

### ▶ キャンパスSDGsびわ湖大会

2021年11月20日に「キャンパスSDGsびわ湖大会」をオンラインで開催しました。大会テーマは「SDGsの地域化をめざして」。SDGs達成に向けて様々な課題に取り組む地域の方や学生、企業などが集い、それぞれの活動について発表・意見交換をしました。大会では、学生と三日月大造滋賀県知事との対談や、博報堂DYホールディングスの川廷 昌弘さんの基調講演を実施。また、分科会に分かれて各地域の活動発表を行うなど、充実した1日でした。



学生・知事対談「一層大きな自由のために」

基調講演：川廷 昌弘氏 (博報堂DYホールディングス)

### ▶ SDGs連続講座

SDGsの視点を持った地域づくり活動のリーダーなど、キーパーソンを育成するワークショップを活用したSDGs連続講座を実施しています。2021年度は、前年に引き続き、社会課題をテーマにした映画をオンラインで鑑賞し、関連する活動を実践しているゲスト講師のお話を伺いました。参加者間でも感想や意見を交換する時間を設け、それぞれのSDGsに対する思いを共有しました。



SDGs連続講座チラシ



### ▶ 近江楽座

近江楽座では、それぞれの学生団体が地域課題の解決を目指して自主的に活動しています。SDGsのゴールとも関係のあるテーマをもち、地域の人たちと一緒に持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。



### ▶ SDGs出前講座

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、学内教職員を講師として派遣し、講演やワークショップを実施しました。



### SDGs達成に向けて

近江楽座専門委員会 委員長 印南 比呂志 (人間文化学部生活デザイン学科 教授)

これからの社会を持続可能にしていくために、学生の皆さんがアクターとして地域に入るとともに多くの課題に向き合っていくことを、滋賀県立大学は全面的にバックアップします。その中で、学び、地域を支える視座を持ち、社会への橋渡しを担う人材として育てていくことを期待しています。本冊子で紹介した近江楽座の活動は学生と地域をつなぐ学びの場づくりなのです。



近江楽座キャラクターメイミー